授業づくり研修講座　実践レポート

　　　　　　座　　間　小学校　　　　　　氏名　　　中村　香苗

○単元名　　　第１学年　　「ぼうしずかんは　ひみつがいっぱい！

～ぜんこうのみんなにぼうしではっけんしたことをつたえよう～」

○実践のポイント（工夫）

・図鑑を作るという言語活動を取り入れることで、児童の学習意欲を高めたこと。

・ゴールまでの学習の流れを掲示したり、各時間のめあてを明確にしたりしたこと。

・相手意識・目的意識を明確にしたこと。

・分かりやすい文の構成について、考える時間をもったこと。

○実践内容

＜単元計画＞　全１０時間

1. 学習のゴールを話し合い、教師の作った図鑑を見て、図鑑作りの進め方（学習の流れ）を知る。
2. 通学帽の「はたらき」と「いろやかたち」の関係を本文から読み取る。
3. 前時の学習をもとに発見したことが伝わるように、通学帽のページを作る。
4. 給食帽の「はたらき」と「いろやかたち」の関係を本文から読み取り、給食帽のページを作る。
5. 麦わら帽子の「はたらき」と「いろやかたち」「できているもの」の関係を考える。
6. 前時の学習をもとに発見したことが伝わるように、麦わら帽子のページを作る。
7. 自分の紹介したい帽子を決め、「はたらき」「いろやかたち・できているもの」の関係を写真や実物を見て考える。
8. 前時をもとに発見したことが伝わるよう、自分の紹介したい帽子のページを作る。
9. 「ひみつがいっぱい　ぼうしずかん」の表紙を作ったり、文の推敲をしたりする。
10. 完成した図鑑を見せ合い、友達のよさを見つける。

教材文は帽子のはたらきについて書かれている。どの紹介文も「かぶるとき」「はたらき」「いろやかたち」の順で構成されている。教材文を読み解く中で、なぜその順序で書かれているのかを考える時間をもった。手立てとしては、それぞれの３つの項目をバラバラにして並べ、並び替える活動を行った。

その中で「かぶるとき」「はたらき」「いろやかたちの」の順番で書かれているよさや、「はたらき」と「いろやかたち」が「そのために」という接続詞で繋がれている理由についても考えるようにした。その上で、自分の紹介したいぼうしを選び、教材文で学習したことを生かして、図鑑づくりができるようにした。

○振り返り（成果や課題）

◎相手意識・目的意識を単元の初めに明示したことで、学習意欲の高まりが見えた。また、学習計画を掲示することで、自分がどこの学習をしているかが分かり、１つ終えるごとに達成感を得ることができている様子がみられた。

◎教材文で学習したことが、自分の図鑑作りに生かすことができている児童が多く見られた。

△自分の選んだ帽子の図鑑のページを作るときに、実物がないグループは写真だけでは想像がしづらかった。子どもが触ったり、形をじっくりと見て考えられるように実物は不可欠だった。

△「はたらき」と「いろやかたち」を見つけることが難しい帽子を選んでいる子どもがいた。事前に選べる帽子を精査しておく必要があった。

△１年生だったため、図鑑のページは型にはめるようにしたので、学習が難しい児童にとってはよかったが、できる児童にとっては、自分で「分かりやすい文」にするための工夫をする場がなかった。